中野キャンパス　〒298-0271 千葉県夷隅郡大多喜町中野 589　TEL:0470-83-0830　FAX:0470-64-6350

２０２２年６月号

Building Character

三育学院中学校

『 経糸と緯糸 』

新校舎棟上げ　6／1

６月３日の金曜日にキリスト教学校教育同盟の第 110 回総会が、横浜市山手の横浜三育幼稚園のすぐ近くにある横浜共立学園を会場に 2 年ぶりに対面で開催されました。私も参加させていただく機会を得ましたが、この 2 年でこれまでお世話になった、キ同盟の各学校の先生方の世代交代が行われていて、新しい顔ぶれにお会いする形となりました。この会合の中で、記念講演として東京女子大学の学長を９年間務め、その後、広島女学院の学長として８年間ご奉仕下さって、この３月に引退された湊晶子先生の貴重なお話をお聞きする機会がありました。湊先生ご自身は、クリスチャンの５代目であり、６代目、７代目もキリスト教学校教育同盟校で学んできたということでした。

このお話の中で、初代の東京女子大学学長であった新渡戸稲造の残した人格形成に関する言葉がいくつか引用されておりました。大変、励まされる言葉でしたのでいくつか紹介いたします。

「日本では人格という言葉は極めて新しい。私共が書生の時分には、人格という言葉はなかった。パーソンという字は詳細に調べると、メンという意味とは違って『人たる』という字である。格といっても資格というような意味は毛頭ない」（西洋の事情と思想）

「人はどこか動じないところ、譲れぬという断固とした信念がなければならない。人格神との関係性、対話性の中に人格は形成される」

「to know（知ること）だけでは充分ではない。to do（実行すること）が大切である。最も大切なことは to be（あなたがあなたとして存在すること）である」

「所謂良妻賢母主義は、人間を一種の型にはめ込むようなものである。日本の女子教育は、女を妻か、母か、娘かいずれかにしてもひとり立ちの人間らしくない男の付属品のごとく見ている。一個の人間として立派にできあがった婦人（人格）ならば、妻としては良妻、母としては賢母である。」（婦人に勧めて）

「婦人が偉くなると国が衰えるなどというのは意気地のない男の言うことで、男女を織物に例えれば男子は経糸、女子は緯糸である。経糸が弱くても緯糸が弱くても織物は完全とは言われませぬ」（1918 年東京女子大学開校式式辞）

時代は、大きく動いて、男女平等というものは当たり前のように言われるようになりました。この男女平等の本質は、女子が男子のようになる、あるいは、男子が女子のようになるということを認めるということにあるのではなく、男子には経糸としての女子には緯糸としての大切な役割を平等に担っているということを意味しているのだということに改めて気づかされました。

校長　尾上 史郎

「若者を歩むべき道の初めに教育せよ。年老いてもそこからそれることがないであろう。」

箴言２２章６節

久我原キャンパス　〒298-0297 千葉県夷隅郡大多喜町久我原 1500　TEL:0470-84-0111　FAX:0470-84-0076